

れいゆうかいつうしん No.2

「れいゆうかいつうしん」ですが、これまで開催された同窓会活動もご紹介してまいります。平成 15（2003）年 9 月 13 日に、「鈴友会発足 35 周年記念事業」として開催された[全商経学科同窓会]の様子を、平成 16（2004）年 3 月発行の鈴友会記念誌「鈴峰をあおぎて」に記載されています。＜以下記念誌より抜粋。内容は、当時の大学名称や先生方の役職などもそのままの内容になります。ご了承ください。＞

商経学科同窓会

11 年間の間に巣立った卒業生は、金融・サービス・製造・自営・マスコミ等各分野で活躍している人や家庭人として家事や子育てにと奮闘中の人もあります。同窓会である鈴友会が発足して 35 周年を迎えると聞き、一つの区切りとして、あのなつかしい庄野キャンパスで卒業年度を越えて、卒業生や先生方と旧交を温め、語り合う手作りの同窓会をおこなおうと、企画されました。そして、鈴鹿短期大学商経学科の昭和 60（1985）年度から平成 7（1995）年度の全卒業生約 1,184 人を対象とした全学同窓会が「鈴友会発足 35 周年記念事業」として、まだ暑さの残る秋晴れの平成 15（2003）年 9 月 13 日（土曜日）に、鈴鹿国際大学短期大学部キャンパス内にて、呼びかけに賛同してくれた総勢約 100 人の参加者が集まり、盛大に開催されました。



鈴鹿短期大学 商経学科 同窓会 平成 15（2003）年 9 月 13 日

同窓生の皆様へ

～鈴友会記念誌 「鈴峰をあおぎて」より～



中部大学教授 大島 俊一

「短大の同窓会に出席してもらえませんが」と、卒業生の石田（武内）さんより電話があり、日時を聞いて直ぐ「行きます」と応え、当日となりました。十数年ぶりのことなので昔の通勤コースをそのまま辿ることにして、終点の平田町駅に下車。時間が早かったので、コーヒーでも飲んでから歩いてみるかと思って改札を出て、先ずタバコを一服と取り出した時、ゼミ生だった高橋君が「大島教授」と背中越しに声を掛けてくれ、「おお久しぶり、元気なようだね」「私はここで犬飼くんと待ち合わせしていますから、一緒に行きましょう」となり、短大までのあいだに旧ゼミ再会となりました。短大は昔とは雰囲気も異なっており、玄関のみは懐かしいもので、控え室は一変していました。全員が揃って、集会となり、学長の堀さんや旧教員がOGやOBたちの前でミニ講義となり、小生も短いスピーチをしました。最終講義を十数年前にして以来のことでありました。その後ティーパーティーとなり、これまた懐かしい学食会場に移動して、しばしの歓談。OBの有竹さんや奥山さんらと話が進み、時は一挙に過去に遡っていきます。そうこうしている内に、卒業生のOBが二人三人と来て「先生、僕に昔言ったことを覚えていますか」と挨拶に来て、「先生から自分が本当にやりたいこと、自分しかできないことをやれと言われたので、決心して就職先を止め、僕は今、一から大工の仕事を始めています。」と嬉しそうに言われた時は、教師としての発言の重大さを改めて実感させられた思いがしました。また、「先生、昔とちっとも変わっていませんよ。相変わらず元気ですね。今日の話聞いて、先生の言っていたことが本当だったと思い、嬉しかったですよ」と言われたときは、何だかジーンと、昔を思い出した話は尽きないものとなっていきます。

終宴間じかになって、大学の行事で遅くなったと言いながら伊藤裕さんが駆けつけ、彼を中心に歓談があちらこちらであがります。幹事の先生方や卒業生の努力で開かれた同窓会であったが、得難い時間となり、後片付けも全員で行って三々五々別れの挨拶をして散会となりました。

小生は出雲先生と伊藤先生と三人で、このままでは何だからと市内の回転寿司へ向かい、お互いの現状を語り合い旧交を温め直すことにしました。唯、残念なのはこの場に岩城先生が居なかったことです。彼に会うのも一つの目的ただけに、次回を期待すると替わりに一杯やって、裕さんの車で四日市まで送ってもらい、昔と今の狭間を行き来しながら、昔の仲間の近況を語り合っ、文字通りの同窓会となったのです。またの機会があれば、思いっきりの笑顔で会えるように、全員お元気で。私も Stay Young で頑張ります。

商経学科同窓会に参加して

～鈴友会記念誌 「鈴峰をあおぎて」より～

中田 隆三・有竹 千鶴

(平成2年・昭和61年・商経)

平成6(1994)年鈴鹿国際大学の開学にともない、「鈴鹿短期大学商経学科」は「鈴鹿国際大学国際学部国際関係学科」に発展し、平成10(1998)年4月より校名が、「鈴鹿短期大学」から、「鈴鹿国際大学短期大学部」と改名されました。現在、短期大学部に商経学科はなく、生活学科(生活情報コース、養護教諭・福祉コース、栄養士コース)のみとなりましたが、鈴鹿国際大学には、在学中商経学科でお世話になった、上藤一郎先生・伊藤裕先生・出雲敏彦先生・クマーラ先生・岩城正則先生・清水利佳(旧姓田中)先生がご活躍されています。

開催当日には、現短期大学部学長堀敬紀先生(在学中お世話になりました堀敬文先生は、現在名誉理事長でいらっしやいます)、在学中、ゼミ・授業等大変お世話になった、北川博一・林英夫・大島俊一・出雲敏彦・大谷仁・伊藤裕先生方には、大変お忙しい中、会場に駆けつけていただきました。また、都合でご参加いただけなかったにも係わらず欠席された先生方からも、卒業生に温かいメッセージをいただき、金田辰夫先生からは「会に役立てよ」と、お心づかいを寄付していただきました。



開会式では、先生方から大教室いっぱいに着席した卒業生達を前に、近況報告やメッセージをいただきました。卒業生は皆、緊張した面持ちでお話をうかがっていましたが、学生時代を思い出しつつ、先生方のお元気なお姿を拝見、温かいお言葉をいただき、次第に緊張がほぐれ、和やかな雰囲気の中開会式は無事終了しました。なつかしい旧商経学科の校舎(現鈴鹿高校五号館)をバックに、参加者全員での記念撮影を行いました。なつかしい校舎をながめながら、学業に打ち込んだ学生時代を思い出していた人も多くみえたのではないかと思います。毎日通った正面通路沿いの花壇に、堀学長先生と大島俊一先生の手により、今回の同窓会を記念し、さざんかの木の植樹が行われました。それぞれの会場へ移動する時も、楽しそうに語らう顔・顔・顔。茶話会は、なつかしい学生食堂で北川先生から乾杯のご挨拶をいただきスタートしました。缶ビールやジュース片手に、学友や先生方と語り合い、旧交を温めおおいに盛り上げました。

今回の同窓会を開催するにあたり、同窓会事務局には大学関係者への連絡と調整、ハガキの発送

から返信ハガキの整理、名簿の整理修正等様々な準備をお手伝いしていただきました。対象者がとても多いので時間や手間がかかり、作業はとても大変でした。鈴友会役員の方々のご協力がなければスムーズな会の運営は出来なかったと思います。また、商経学科各年度の幹事への連絡や準備にも、連絡先不明者や事情により活動できない幹事もあり、一時は開催内容も縮小せざるをえないかと、窮する事もありましたが、数人の有志や当日参加出来なくても準備に駆けつけてくれた人、卒業生宅へ何件も電話をかけて参加の呼びかけをしてくれた人など、心ある商経卒幹事と卒業生の地道な働きかけにより、乗り越える事が出来ました。また、大学事務局長をはじめ職員の方々、格安で提供して下さった写真屋さん、植木屋さん、レストランの方など書ききれない程の多くの方にご協力をいただき、今回の大同窓会を成功の内に終了する事が出来たのです。紙面の上ですが、ご協力いただいた皆様、重ねて御礼申し上げます。この同窓会が、現在の厳しい経済・社会で日々戦い、活躍している皆さんへのエールとなったのであれば、準備に係わった者としてうれしく思います。



先生方・卒業生の皆さんと、また、何年後になるかわかりませんが、このような全学同窓会を開ければと、考えております。今回は庄野キャンパス学生食堂がメイン会場で、少し地味な会でしたが、次回は、大きな場所で開ければと、考えております。その時は、今回参加出来なかった方、出来た方、ぜひ、ご参加ご協力をお願いしたいと思います。

以上で、商経学科全学同窓会のご報告とさせていただきます。



なつかしい講義室にて
先生方は笑顔
卒業生は緊張



あちらこちらから歓声がおこり賑やか



お子さんと一緒に



赤ちゃん連れの方も出席されました



当時の堀学長先生と大島教授に
植樹していただきました



植樹されたさざんかを囲んで